四国圏域生態系ネットワークの目標・展開方針（案）

１．目的と目標、展開に向けた基本方針

（１）目的（案）

四国圏域生態系ネットワーク形成の目的を、自然環境条件及び社会環境条件の観点から、以下の２点とします。

目的１．コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生に基づく四国全域における生態系ネットワークの形成
目的２．コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた四国全域における地域活性化及び経済振興の実現

（２）目標（案）

目標については、生物多様性条約締約国会議（COP10）で採択された「愛知目標（2010）」※を踏まえ、到達目標（～2050 年）と短期目標（～2020 年）に、中期目標（～2030 年）を加えた３つのフレームを設定。

到達目標　～2050 年	
四国全域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが『グリーンインフラ』として整備形成され、自然と共生した安全・安心で魅力あふれる持続可能な地域が実現している。【到達イメージ】 ◇四国各地でコウノトリ・ツル類が暮らしていることが日常の光景となり、これらが舞い降りる川や田んぼは生物多様性が豊かであると共に、美しい水辺景観が各地に広がっている。 ◇川と里での生態系ネットワークの取組は、山や海へも広がり、各地域特有の自然資源や歴史・文化・伝統を守り活かした産業と、落ち着いた暮らしが営まれている。 ◇地域に住み、働き、訪れる人々が、自然とのつながり・人とのつながりの豊かさを実感できる、四国圏域独自の個性的でアピール性の高い地域づくりが展開されている。	
■生息環境づくり【到達イメージ】	**■地域・人づくり【到達イメージ】**
【コウノトリ】四国圏域では、コウノトリの繁殖・定着が各地で進み、年間を通じて身近な存在となっている。国内の代表的な野生復帰成功地域として、堤内・堤外が一体となった生態系ネットワーク形成の達成が実感される。 【ツル類】　四国圏域の河川や水田では、冬の訪れと共にナベヅル・マナヅルの群れが飛来し主要な水辺拠点で越冬する姿が見られる。国内における安定した新規越冬地として、堤内・堤外が一体となった生態系ネットワーク形成の達成が実感される。	・コウノトリやツル類の存在や、それらが暮らす美しい水辺景観は四国圏域の新たな誇りとなり、その生息環境の保全・再生・管理が各地域の多様な主体による連携や協働で進められ、人々はその結果として様々な「生態系サービス」の恩恵が、持続的に享受できるようになっている。 ・コウノトリやツル類が象徴する生物多様性の豊かな四国圏域の生態系ネットワークの形成は、全国のみならず国際的にも注目されるようになり、ブランド農作物や訪日観光客を通じて地域経済や地域活力を担う有力資源の柱となっている。
中期目標　～2030 年	
■生息環境づくり	**■地域・人づくり**
【コウノトリ】吉野川流域では、複数ペアが繁殖・定着する安定した生息地となっている他、四万十川・肱川・那賀川等の流域及び周辺地域では、新規繁殖地形成に向けた生息環境の保全整備が進み、複数地域で繁殖が確認されるようになっている。 【ツル類】　四万十川・肱川を始め吉野川・那賀川の流域及び周辺地域では、越冬環境の保全整備が進み、核となる安定的な越冬地が形成され、他地域への分散も始まっている。	・四国圏域で設置された「生態系ネットワーク推進協議会」の活動により、シンボル性の高いコウノトリ・ツル類を活かした産業振興の推進が、観光やブランド商品開発、地場産業の各分野において、各流域の独自性を踏まえて積極的に展開されている。 ・コウノトリ・ツル類の各地域への定着とあいまって、地域づくりの担い手の連携と協働が進み各主体によるそれぞれの成果の実感に基づき、さらなる活動の輪が広がる好循環の取組となっている。
短期目標　～2020 年	
■生息環境づくり	**■地域・人づくり**
【コウノトリ】吉野川流域における鳴門繁殖ペアの生息環境整備を起点に、吉野川流域内での繁殖ペアの増加を図ると共に、四万十川周辺地域等での新規繁殖地形成に向けた検討や支援を推進する。 【ツル類】　四万十川流域と肱川周辺地域では、これまでの取組（ツルの里づくり等）の強化拡充による安定的な越冬地化を進める。吉野川・那賀川流域においても、人による影響が少ないねぐらと採食場所の保全整備に取組み、越冬環境の確保を推進する。	・四国圏域においては、３河川以上の流域等で「生態系ネットワーク推進協議会」が設置され、それらの地域を中心に、コウノトリ・ツル類を受入れる条件整備と、地域の個性を活かした方策や計画の検討を進め、位置づけられた「拠点地区」ごとに有効な取組を推進する。 ・コウノトリ・ツル類の生息を活かした産業振興（産業、観光等）に向け、基盤整備や人材育成等への効果的な取組を始めると共に、生息環境の保全整備活動や普及啓発イベント、環境学習等に参加する市民・民間団体・企業等の地域づくりの担い手を、年々増加させる。

※愛知目標：2010 年に愛知県で開催された「生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）」では、生物多様性の新たな世界目標である「愛知目標」が採択されました。愛知目標では、2050 年までのビジョン（長期目標）として「自然と共生する世界」の実現を、2020 年までのミッション（短期目標）として「回復力があり、また必要なサービスを引き続き提供できる生態系を確保するため、生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施する。」こと等が掲げられました。

（３）生態系ネットワークの展開に向けた基本方針（案）

■方針１：多様な主体と連携・協働して取組を進めます

目標を達成するためには、個別単独の取組だけでは十分ではありません。コウノトリ・ツル類が地域に受け入れられるように理解を深めながら、様々な関連主体とビジョン・目標を共有し、それぞれの役割分担に応じた連携・協働による取組を進めます。

■方針２：コウノトリ・ツル類をシンボルとした健全な生態系を取り戻す取組とします

健全で持続的な私たちの生活に不可欠な「生態系サービス」の供給源となる良好な生態系を取り戻すためには、高次消費者であるコウノトリ・ツル類を指標に、これらをとり巻く多様な生きものも含めて、その生息・生育基盤となる自然環境の保全・再生の取組を推進します。

■方針３：四国圏の安全・安心の確保と合わせた「グリーンインフラ」の概念に基づく取組とします

南海トラフ地震や近年の気候変動により激甚化する自然災害へ備えるための河川整備等の公共事業と、コウノトリ・ツル類の生息環境の保全整備を一体化させた、環境と防災・減災等の融合を図る「グリーンインフラ」の取組として進めます。

■方針４：地域の社会・経済に効果をもたらす「地域創生」の取組とします

自然の保全・再生のみならず、地域の産業やコミュニティ、文化・伝統、教育、魅力的で元気な地域づくりなどの、社会・経済がもつ課題を統合的に改善させる「地域創生」の取組として進めます。

■方針５：条件が整っている地域から先行して進め四国全域への展開を段階的に進めます

コウノトリ・ツル類のくらす自然環境と社会環境の条件が整っている流域や地域から先行して事業化を進め、順次、事業地域を増やしながら、四国全域へのネットワークが広がる展開を目指します。

■方針６：広域的な視野を持ち他地域の生態系ネットワークとの連携を意図した取組とします

コウノトリ・ツル類は、広域的な移動・交流を行う大型水鳥類であることから、世界や東アジア、日本全国の生態系ネットワークとの連携が不可欠になります。特に、隣接する近畿圏、中国圏、九州圏域における生態系ネットワークの進展との連携を図りながら効果的な展開を進めます。

■方針７：試行錯誤に基づく順応的で着実な取組を進めます

自然環境と生きものの関わりは複雑で地域ごとの違いがあり、人と自然との関係についても大きな不確実性を持っています。地域での学びあいと話しあいを重視した合意形成を尊重し、取組の実施と客観的な検証を行いながら、必要に応じて見直す順応的な進め方を基本とします。

２．想定される取組内容

コウノトリ・ツル類をシンボルとした四国圏域生態系ネットワークの展開で想定される取組内容を、以下に示します。「生息地環境づくり」、「地域・人づくり」の取組内容は、各地域レベルの推進協議会や専門部会、地域ワーキング等の地域の実情に応じた協議の場を設け、検討を進めます。

（１）関係主体の参画による推進体制の構築と合意形成に基づく計画等の策定・推進

・四国圏域生態系ネットワーク推進協議会と各地域の協議会および専門部会等の設置、継続開催
・四国圏域生態系ネットワーク全体構想、四国圏域生態系ネットワーク基本計画、各地域レベルの実施計画の策定、推進、評価、改善案の検討

（２）情報の共有、理解の醸成、普及啓発、迅速な対応等

・四国圏域でのコウノトリ、ツル類の飛来・生息情報の収集、整理
・四国圏域での取組状況の把握、情報の共有
・四国圏域でのコウノトリ、ツル類を活用した地域振興についての情報の発信
・コウノトリ、ツル類の飛来時や傷病等の取扱、鳥インフルエンザ、鳥害に関する啓発、効果的対策の普及・支援
・フォーラムやシンポジウム等の開催等による情報の発信

コウノトリ・ツル類の市民参加型飛来調査

フォーラム等の開催による情報の発信

四国遍路と合わせた
コウノトリ・ツル類の観光戦略の検討

飛来時の普及・啓発パンフレットの作成
出典：「兵庫県立コウノトリの郷公園」ウェブページ

（３）コウノトリ・ツル類の生息環境の保全・再生：生息環境づくり

■コウノトリ・ツル類の採食環境の保全・再生

・河川の湿地の保全整備、河道掘削等の治水事業と一体化した湿地の創出
・堰や樋門・樋管の落差の解消、水田魚道の設置等による水域の連続性の確保
・農地での多様な水管理、農薬・化学肥料の使用量の低減
・秋耕の時期・方法や水田転作等への調整
・水路、ため池の多自然環境の維持・改善
・不作付地、荒廃農地での湛水管理

河道掘削等の治水事業と一体化した湿地の創出

水田魚道の設置

■コウノトリの営巣環境の創出

・コウノトリの繁殖用の人工巣塔の設置、電柱・鉄塔巣塔との調整
・里山林の保全・管理、コウノトリの営巣木となるアカマツ等の保全・育成

■ツル類のねぐら環境の保全・再生

・ツル類がねぐらとして利用する砂州・干潟の保全
・河川における中州環境の創出、人や動物の接近抑制水域の整備
・水田における冬期湛水
・ため池における冬期の低水位調整
・ねぐら環境における遮光・遮音ネット等の設置

コウノトリの繁殖用の人工巣塔の設置

ツル類のねぐらのための冬期湛水管理

■人の利用の調整

・生息環境における狩猟、漁業・遊漁、車両の乗り入れ等との調整
・河川工事・砂利採取等との調整
・普及啓発系サイン（立入制限やマナー・ルール）、解説・観察・教育系サインの作成と設置

（４）コウノトリ・ツル類を活用した地域振興：地域・人づくり

■環境保全型の農産物・加工品、関連する産物の流通・販売

・コウノトリ・ツル類に関連するブランド商品・産物の開発
・流通、販売ルートの開拓
・認証制度の創設・実施

■観光の推進

・エコツアー・観光プログラムの開発、観光プロモーションの実施

ブランド産物の開発・販売

エコツアーの実施

■自然体験、環境教育の推進

・教育機関へのコウノトリ・ツル類や取組に関する情報の提供
・自然体験、環境教育の場や機会の提供

■市民・事業者等の参加・協働の促進

・市民参加型のモニタリング調査や環境管理活動への参加促進
・各種事業者への参加の働きかけ、マッチングの実施

■各地域の取組の情報発信

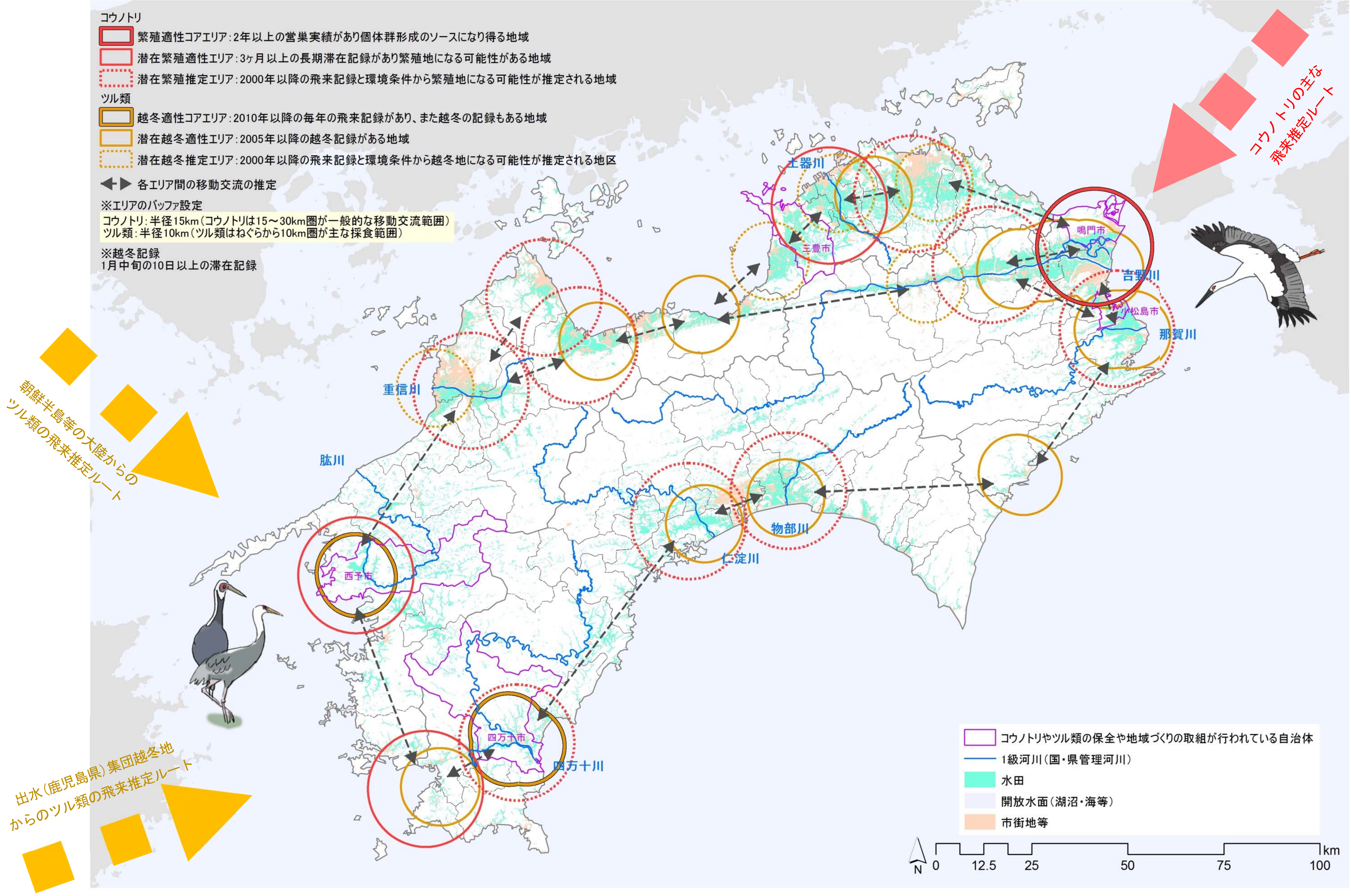
・各種のメディアやイベントを通したコウノトリ・ツル類や取組に関する情報の発信

自然体験、環境教育の場の提供

イベントを通じた取組の情報発信

3．コウノトリ・ツル類を指標とした『四国圏域生態系ネットワーク構想図』

コウノトリ・ツル類の 2000 年以降の飛来・生息状況と環境条件、各種活動等の分析に基づき、現況の繁殖や越冬を行う「拠点地区（コアエリア）」から、潜在的な生息地へと分布の再生を段階的に進め、将来的には圏域内の各河川流域や周辺地域に広がる生息適地全体での安定的な生息（個体群の形成）を図ります。



4．先行モデル河川

指標種の確認状況や保全、地域づくりの取組状況から、吉野川・四万十川の流域等を「先行モデル河川」として、生態系ネットワーク推進協議会の設立のもとに、堤外・堤内の一体的な取組を進めていきます。

流域基礎情報 ＼ 指標鳥類関連情報			指標種の確認状況 流域およびその周辺地域での確認状況【堤内地】		【堤外地】河川区域での確認状況	指標種の保全・地域振興等の取組の有無	先行モデル河川	備考
河川名	県	流域規模	コウノトリ	ツル類				
吉野川	徳島県	流路延長：194km 流域面積：3,750km^2	◎	○	○	○	●	『吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会』が、2017 年 10 月 19 日に設立
那賀川	徳島県	流路延長：125km 流域面積：874km^2	△	○	○	○		小松島市でツル類をシンボルとした農産物生産・販売の取組あり
物部川	高知県	流路延長：71km 流域面積：508km^2	△	○	○	―		
仁淀川	高知県	流路延長：124km 流域面積：1,560km^2	△	○	○	―		
四万十川	高知県	流路延長：196km 流域面積：2,270km^2	○	◎	○	○	○	幡多地域（四万十川の周辺 6 市町村）を対象とした『生態系ネットワーク推進協議会』の設立に向け、2018 年 1 月 13 日にシンポジウムを開催
肱川	愛媛県	流路延長：103km 流域面積：1,210km^2	○	◎	―	○		西予市でコウノトリ・ツル類の保全の取組あり
重信川	愛媛県	流路延長：36km 流域面積：445km^2	△	△	○	―		
土器川	香川県	流路延長：33km 流域面積：127km^2	○	○	―	○		三豊市でコウノトリの保全の取組あり

■流域およびその周辺地域での確認状況【堤内地】

コウノトリ
- ◎：2 年以上の営巣実績がある
- ○：長期滞在記録（3 カ月以上）がある
- △：2000 年以降の飛来記録がある

ツル類
- ◎：2010 年以降の毎年の飛来記録があり、また越冬の記録もある
- ○：2005 年以降の越冬記録がある
- △：2000 年以降の飛来記録がある

■河川区域での確認状況【堤外地】
- ○：コウノトリ・ツル類のねぐらや、休息・採食等の記録がある
- ―：記録がない

- ●：2017 年度内に推進協議会の設立
- ○：2018 年度内に推進協議会の設立を予定